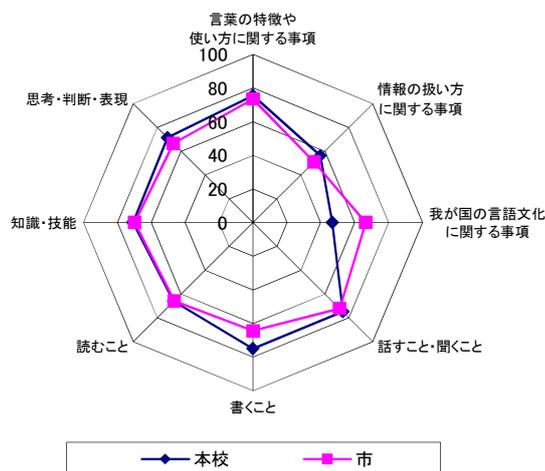


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 75.6 | 73.5 | 74.4 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 56.3 | 51.0 | 51.5 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 46.9 | 66.5 | 68.8 |
| | 話すこと・聞くこと | 75.0 | 72.3 | 73.7 |
| | 書くこと | 75.0 | 64.3 | 66.6 |
| | 読むこと | 66.1 | 65.8 | 64.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 70.8 | 69.8 | 70.8 |
| | 思考・判断・表現 | 71.5 | 66.5 | 67.3 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

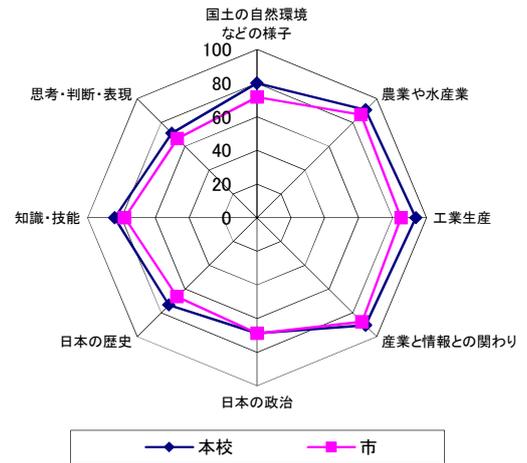
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>平均正答率は75.6%で、市の平均を2.1ポイント上回った。</p> <p>○漢字を読む・書く問題の正答率は、市の正答率と同程度であった。二字熟語の読みでは、市の正答率を6ポイントほど上回った。</p> <p>○三字の熟語の成り立ちや、文脈に沿った漢字の書き取りは、市の正答率を6ポイントほど上回った。</p> <p>●送りなががつく漢字の書きが市の正答率を8ポイントほど下回った。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字の読み書きでは、テストや自主学習において繰り返し復習させることで普段から使えるように基礎的な力を伸ばしていく。</p> <p>・送りなががつく漢字の書き取りについても、教科書の問題だけではなく、ドリル学習などで定着を図っていきたい。</p> |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>平均正答率は56.3%で、市の平均を5ポイントほど上回った。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題、目的に応じて文章を簡単に書く問題の正答率は、共に市の正答率を上回った。</p> | <p>・日頃から、新聞記事や図書資料、インターネットなどから様々な情報に触れる機会を増やし、必要な情報を読み取ったり情報をもとに自分の考えをまとめて文章を書いたりする学習を通して、情報を整理する力を育てていく。</p> |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>平均正答率は46.9%で、市の平均を19.6ポイント下回った。</p> <p>●語句の由来に関心を持ち、和語、漢語、外来語についての理解を問う問題の正答率は46.9%で、市の平均より20ポイントほど低い。</p> | <p>・語句について学習する際には、その由来や背景を捉えさせたり、生活と結び付けて考えさせたりすることで、知識・技能の定着を図っていく。</p> <p>・外来語や和語、漢語の学習については、身近な単語を例に、言葉の由来や背景を調べる活動を取り入れるなど、児童が興味をもって学べるような展開を工夫し、理解を促していく。</p> |
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は75.0%で、市の平均を2.7ポイント上回った。</p> <p>○インタビューを聞き、話の内容を捉える問題の正答率は96.9%で、市の正答率を上回った。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は、53.1%で市の平均を6.7ポイント上回った。</p> <p>●インタビューを聞き、質問を工夫する問題の正答率は、市の正答率を2ポイント下回った。</p> | <p>・授業だけでなく、学校生活の様々な場面で対話的な活動を取り入れ、相手の考えをよく聞くとともに、自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようにしていく。</p> <p>・学校での話し合い活動においても、話し方の工夫を捉えられるようにしていく。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は75.0%で、市の平均を10.7ポイント上回った。</p> <p>○目的や意図に応じて、書き表し方を工夫したり、指定された長さで文章を書いたりする問題の正答率は、共に市の正答率を10ポイント以上上回った。</p> | <p>・今後も作文や日記指導など、日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感や苦手意識を軽減するための指導を継続していく。</p> <p>・授業の中でも様々な条件を提示しながら文章を書くことに取り組ませ、自分の意見やその理由を明確にさせていきたい。また、予想される反論やそれに対する意見も書けるように指導していく。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は66.1%で、市の平均と同程度であった。</p> <p>○説明文の文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題の正答率は43.8%で市の正答率を8.5ポイント上回った。また、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の正答率も、市の正答率を8ポイント以上上回った。</p> <p>●物語文の人物像を具体的に想像したり、文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げたりする問題では、共に市の平均を下回った。</p> | <p>・国語の授業において、物語文を丁寧に読み取る活動を継続して行う。また、文中に書かれた内容を根拠にして人物像を具体的に想像したり、登場人物の心情を理解したりする活動を意図的に取り入れ、友達と考えを伝えあいながら考えを広げられるようにしていく。</p> <p>・朝の読書の時間や「うちどく」を積極的に推奨し、物語だけでなく、科学や説明文をはじめとした様々な分野の本に親しむ機会を増やしていく。</p> |

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 80.0 | 71.6 | 69.6 |
| | 農業や水産業 | 90.6 | 86.7 | 83.7 |
| | 工業生産 | 93.8 | 85.0 | 79.5 |
| | 産業と情報との関わり | 90.6 | 87.7 | 77.4 |
| | 日本の政治 | 68.8 | 68.9 | 71.7 |
| | 日本の歴史 | 73.4 | 66.7 | 66.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 84.0 | 78.0 | 76.7 |
| | 思考・判断・表現 | 71.1 | 66.4 | 63.1 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

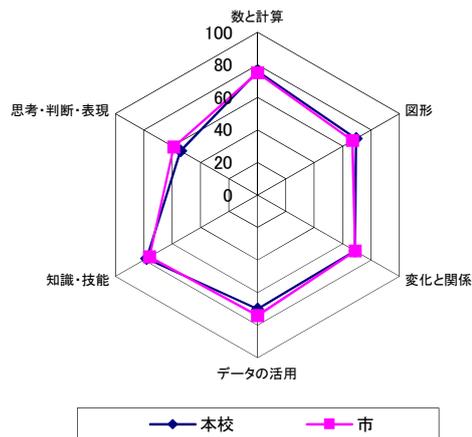
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | 平均正答率は80.0%で、市の平均を8.4ポイント上回った。 ○すべての設問で正答率が市の平均より高く、国土の自然環境などの様子についてよく理解していると考えられる。 | ・国土の位置や広がり、特徴などについて、写真や資料を見ながら気付いたことや考えたことを話し合ったり自分の言葉で記述したりし、表現力を育てる指導を今後も継続して行う。 |
| 農業や水産業 | 平均正答率は90.6%で、市の平均を3.9ポイント上回った。 ○すべての設問で正答率が市の平均より高く、日本の農業や水産業の様子について十分理解していると考えられる。 | ・自分たちの食生活と食料生産についての理解が深まるよう、食料自給率や食料確保の変化と結び付けながら調べたり、分かったことを自分の言葉でまとめたりする活動を意図的に取り入れる。 |
| 工業生産 | 平均正答率は93.8%で市の平均を8.8ポイント上回った。 ○すべての設問で正答率が市の平均より7ポイント以上高い。特に工業製品の絵を見て分類する問題は、正答率が100%であり、理解している様子が伺える。 | ・資料を活用する力がさらに高まるよう、地図やグラフなどの資料から情報を読み取る活動を今後も継続して行う。 |
| 産業と情報との関わり | 平均正答率は90.6%で、市の平均を2.9ポイント上回った。 ○情報の発信と受信の注意点について会話文をもとに考える問題は、正答率が市の平均より13.1ポイント高く、十分理解していると考えられる。 | ・自分たちの生活に欠かせないインターネットやSNSについて話題にしたり、善悪の判断を問うことを繰り返して行い、情報社会への関心や実践的な態度をさらに高めていく。 |
| 日本の政治 | 平均正答率は68.8%で、市の平均と同程度であった。 ○国会や内閣の働きについて資料から読み取る問題は、市の正答率より4.5ポイント高く、よく理解していると考えられる。 ●国民の義務について答える問題は、正答率が78.1%で、市より9.6ポイント低い。 | ・国民の権利と義務など、法や社会の仕組みに関する事柄を学校生活と結び付けて取り上げることで、実感をもって学ぶことができるように授業展開を工夫していく。 |
| 日本の歴史 | 平均正答率は73.4%で、市の平均を6.7ポイント上回った。 ○資料から、刀剣に刻まれた人物を答える問題は、市の正答率より30.8ポイント高く、十分に理解していると考えられる。 ●源平の戦いが行われた場所を地図から選択する問題は、市の正答率より8.8ポイント低い。 | ・歴史的な事象をより深く理解できるよう、歴史上の出来事の名称だけでなく、理由や背景を考えてノート等にまとめたり、地図帳で場所を調べたりする活動を意図的に取り入れていく。 |

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 76.1 | 75.1 | 75.8 |
| | 図形 | 69.4 | 66.8 | 68.3 |
| | 変化と関係 | 68.7 | 68.8 | 65.0 |
| | データの活用 | 70.1 | 74.1 | 63.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 78.1 | 76.1 | 75.8 |
| | 思考・判断・表現 | 54.2 | 59.0 | 51.7 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

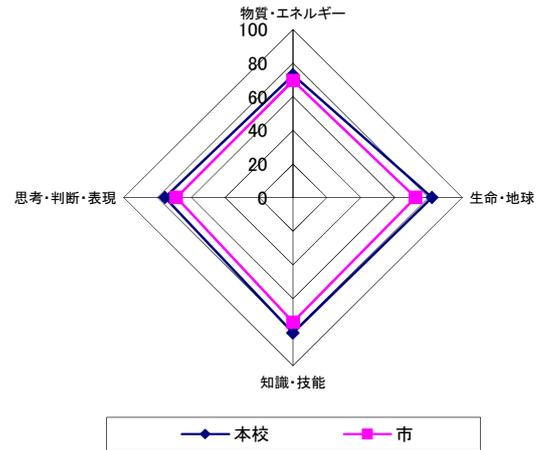
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は76.1%で、市の平均をやや上回った。</p> <p>○文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表したり、2つの文字を使って表された式で一方の文字の値から他方の文字の値を求めたりする問題の正答率は、ともに市の平均を上回った。また、分数÷分数(約分あり)の計算の正答率は90.9%で、市の平均を10.2ポイント上回った。</p> <p>●真分数+真分数=仮分数(帯分数)で、片方の分母にそろえて通分をする計算の正答率は、市の平均を10.0ポイント下回った。また、図を見て小数倍の文章問題を解くために除法の立式をする問題の正答率は、市の平均を9.3ポイント下回っていた。</p> | <p>・計算ドリルやAIドリルを活用し、朝の学習や家庭学習等で既習内容の復習を繰り返し行っていくことで、基礎・基本の確実な定着を図っていく。</p> <p>・定期的に小数や分数の計算問題を取り入れ、確かな計算力を身に付けさせるようにする。</p> <p>・小数や分数で表すことによさや数の大きさの量感などを身に付けられるよう、生活に密着した課題や解く必然性のある課題を用意し、自分事として取り組めるようにする。</p> <p>・文章問題の題意を正しくつかみ、「どのように問題を解決していけばよいのか」という見通しをもたせ、数直線や図に表しながら自分の考え方を分かりやすくまとめたり、説明したりする場を多く設定したりしていく。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は69.4%で、市の平均を2.6ポイント上回った。</p> <p>○点対称な図形の対称の中心から対応する2点までの長さを求める問題の正答率は市の平均を16.0ポイント上回っており、確実に理解している様子が見える。</p> <p>●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取って面積を求める問題は5.2ポイント、直径が与えられた円の面積を求める問題は6.0ポイントと、いずれも市の平均を下回った。</p> <p>●既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題の正答率は、市の平均を12.1ポイント下回った。</p> | <p>・身の回りの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させたり、具体物や一人一台端末等を操作させたりしながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。</p> <p>・様々な図形を提示し、それらの図形の性質から面積や体積を求めるために必要な長さを見つけ、公式に当てはめて課題を解決する力を身に付けさせていく。</p> |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は68.7%で、市の平均と同程度である。</p> <p>○速さと道のりから時間を求める問題の正答率は93.9%と、市の平均を14.5ポイント上回っており、確実に理解しているものと思われる。</p> <p>●基準量と比較量から割合を求める問題の正答率は36.4%と、市の平均を17.4ポイント下回った。</p> | <p>・単位量あたりの大きさや割合について、日常生活の場面にあった問題等で見通しをもたせ、数直線や図を用いて考えたり、根拠を明確に説明したりする活動を多く取り入れることで理解を深めていくようにする。</p> <p>・様々な問題文に触れ、与えられた情報から基準量と比較量を正確に読み取り、割合を求めることができるようにする。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は70.1%で、市の平均を4.0ポイント下回った。</p> <p>○平均・データの見方において、中央値を求める問題の正答率は81.8%と、市の平均を6.3ポイント上回った。</p> <p>●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題の正答率は39.4%と、市の平均を21.3ポイント下回った。</p> | <p>・児童の身の回りの事象から問題を設定し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行う活動を充実させていく。自分事として問題を解決したり、解決の過程や結果を考察したりすることで、データを活用する力を養っていく。</p> |

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 72.9 | 69.5 | 65.2 |
| | 生命・地球 | 82.0 | 72.3 | 70.1 |
| 観点別 | 知識・技能 | 80.4 | 74.0 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 75.6 | 68.7 | 65.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|---|
| 物質・エネルギー | <p>領域全体の平均正答率は72.9%で、市の平均を3.4ポイント上回った。</p> <p>○「物の燃え方」については、全ての設問で市の平均を10ポイント以上上回り、特に二酸化炭素と窒素を区別する方法に関する設問では、97%の児童が正しく解答することができた。</p> <p>●「物の溶け方」の条件制御の誤りを指摘する設問や、溶質を取り出す方法に関する設問では、正答率が40%前後と低く、かつ市の平均を下回った。</p> | <p>・「物の燃え方」で学習する大気中の気体の成分比やその性質等については、他の学習の際も繰り返し確認したことで、知識の定着につながったものと考えられる。今後も、学習に関連する既習の知識を適宜復習したり意図的に活用したりすることで、基礎的な知識の定着を図っていく。</p> <p>・「物の溶け方」の条件制御に関する設問では、実験の様子を表した図や結果の表の中から条件設定の間違ひを見つける必要があったが、図表を見て総合的に判断することが難しかったものと考えられる。「電流のはたらき」の、端子をつないで直列つなぎを完成させる設問でも正答率が低いことから、情報を図表で表す活動や、図表から読み取れる情報について話し合う活動、図表について吟味する活動等を意図的に取り入れ、非連続型テキストを読み解く力を高めていく。</p> |
| 生命・地球 | <p>領域全体の平均正答率は82.0%で、市の平均を9.7ポイント上回った。</p> <p>○「流れる水のはたらき」については、全ての設問で市の平均を大きく上回り、特に水量が増えたときの水の速さの変わり方を問う設問では、全員が正解することができた。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」の茎や葉を切って大根を保存する理由について記述する設問で、市の平均を17.3ポイント上回った。</p> <p>○「月と太陽」の和歌が詠まれた時の月の形を推測する設問では、市の平均を約25ポイント上回った。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」では、文中の人物の仮説に即して根の断面を予想する設問において、市の平均を5.2ポイント下回った。</p> | <p>・「植物のつくりとはたらき」の根の断面を予想する設問では、文中の人物の仮説に即して根の断面を予想する必要があったが、誤答した児童の多くが、自分が観察したことがあるホウセンカの茎の断面と同じ図を選んでいった。設問をよく読むことの指導はもちろん、日々の学習の実験結果を予想する場面で、「◇◇になると思う」といった単純な予想ではなく、もし○○ならば△△になるはずといった話合いや、○〇さんはこう考えているわけだからと他者の思考に沿って考える活動を意図的に取り入れていく。</p> <p>・「月と太陽」の学習では、体育館で月型のライトを使って満ち欠けを再現したり、動画を活用したり、実際の月を観察したりして児童の理解が確実なものになるように努めたことが高い正答率につながったものと考えられる。理解や知識の定着が難しいとされる内容であるため、今後も児童の実態に合わせて、具体物やICTの活用、実体験との関連付けを行い、確実な習得を図っていく。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-------------------------|--|--|
| 学習内容の定着を図るための活動の充実 | 「海道小学習のきまり」に示された約束を徹底するとともに、既習事項を振り返る場の設定や繰り返し学習の工夫、家庭学習を推奨するなどして定着を図る。 | 6年生では、国語のほとんどの領域で、正答率が市と比べて上回り、算数の「データの活用」の領域以外、正答率が上回った。1～6年生では、家庭学習の時間は、平日は市の平均と同程度であったが、休日は市と比べて少ない傾向にある。 |
| 対話的な学びを通して、共に高めあえる集団作り | 活動形態を工夫することで協働的な学び合いの場を多く設定し、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを深めたり広げたりする活動の実現を図る。 | アンケートの「グループなどの話し合いに、自分から進んで参加しているか。」の肯定的回答で、市の肯定的回答と比較して、同程度であった。しかし、学年によっては大きく下回るところもあった。 |
| 児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫 | 単元や内容のまとまりを見通した授業を展開するとともに、めあてに沿った振り返りを充実させることで、児童が自らの成長を実感し、次の学習への意欲をもてる学習の実現を図る。 | アンケートの「学習した内容について、分かったことやよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」の肯定的回答は、市の肯定的回答よりやや上回った。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・児童質問紙では、「普段、学校の授業以外に、1日どれくらい学習しているか。」という設問に対し、どの学年も本校で設定している低学年20～30分、中学年40～50分、高学年1時間以上取り組んでいると多くの児童が回答している。これは、本校で推奨してきた家庭学習が浸透しつつある結果と考える。次年度も、さらに多くの児童が推奨時間以上になるよう保護者の協力を得ながら実践していくとともに、学習内容がより充実したものになるよう支援していきたい。

・4～6年生は、国・県・市の調査結果で、国語「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率が低い傾向にあった。児童質問紙調査では、「先生や友達の話最後まで聞いている。」に肯定的に回答した児童は、ほとんどの学年で市の平均より高いが、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」には、ほとんどの学年で市の平均より低い結果であった。このことから、次年度は、自分の意見を理由と共に述べる機会を増やしていくことと、学習や学習の振り返りの際に、自分の意見の理由が適切であるかや、理由と考えが適切に結びついているかなどを吟味して意見が言えるようにしていくことに注力したい。